

身近な川から広げる環境意識

学校随一の大所帯部活動

愛知県名古屋市の北西端に位置する私立名城大学附属高等学校の自然科学部は、100人超の部員を擁する学校一の大所帯部だ。ただし、創部は2006年度と、歴史はそれほど古くない。きっかけは、この年から学校が文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されたことだった。顧問の吉川靖浩教諭によると、「科学に興味のある生徒が増え、いろいろなことをやってみようという彼らの思いを汲み取り受け皿として創部しました」という。

そのため活動の幅は広く、たとえば透明骨格標本を作る「骨班」や、カビからペニシリンの抽出を試みる「メディスン班」、「発酵班」や「天文班」など、さまざまな班が各々の研究テーマに取り組んでいる。



自然科学部「飼育班」のメンバー



身近な川の水質から環境問題を実感する生徒たち



中谷財団令和元年度成果発表会
西日本大会でのプレゼンテーション



●実施担当

吉川靖浩 教諭

●活動のモットー

今、この学校にいるからこそできる経験をしてほしい。やりたいことだけでなく、いろいろなことをやることで多くを発見し、視野を広げてほしい。

学校概要



校訓は「知・徳・体」。2006年度から継続してSSHに指定され、「スーパーサイエンスクラス」を設けるなど理系に強い伝統校。

設立：1926年

生徒数：2011人

所在地：名古屋市中村区新富町1-3-16



月1回行っている庄内川の調査

交流で広がる研究の幅

そして、約30人の「飼育班」を中心に2014年から継続研究しているのが、学校の北を流れる庄内川の調査だ。

月に1度の生物捕獲調査のほか、上流域の観察会や下流にあるラムサール条約湿地「藤前干潟」の調査など、研究は川全体の生態系に及ぶ。干潟のシジミを食べる調査も行うが、2年生の三輪友里奈さんは「少し臭くて、川が汚れていることを実感しました」と環境問題を身近に感じていた。

このほかにも、骨班と協力しての標本製作や、2019年からは化学に強いメディスン班による水質調査も始まった。「他班との交流は知識が増えるし、研究の幅も広がりました」と言う2年生の青木結菜さんは、さらに「同じような調査研究をしている学校と連携して、他の川との比較もしてみたいです」と話す。先輩から受け継がれてきた研究は、さまざまな広がりを見せようとしている。

(令和元年度個別助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索